

〈報道資料〉

前田專學博士((公財)中村元東方研究所理事長、東京大学名誉教授)がインド共和国パドマ・シュリー勲章を受章しました。2014年4月26日インド共和国大統領官邸における叙勲式典に出席いたしますので、お知らせいたします。

2014年3月

公益財団法人中村元東方研究所



当研究所の理事長、前田專學（まえだ・せんがく、82歳：受章当時）博士が、インド共和国の勲章、パドマ・シュリー（Padma Shri）を受章いたしました。この受章は、これまでの日印文化交流の歴史を継承しながら、哲学・思想の学術分野を軸に、経済界・産業界等にも発展する総合的な人的交流の礎を築いた、博士の半世紀以上にわたる功績を、インド政府が称えたものです。

前田博士がこのたび受章したパドマ・シュリーは、インド共和国政府が毎年同国の共和国記念日にあたる1月26日に発表をしている勲章の一つで、分野を問わず、インド国家のために卓越した貢献をなした民間人に贈られます。勲章は例年インド大統領官邸で盛大に催される叙勲式典において大統領みずからの手で受章者に手渡されることになっており、本年は4月26日に開催の運びとなっております。この式典には前田博士も出席の予定です。

受章者は選考委員からの推薦にもとづき、主としてインド国内の功労者の中から選ばれますが、例年数名程度インド国外からも選出されます。日本からはこれまで、中山太郎・前衆議院議員（2002年：政治）、司馬正次・筑波大学名誉教授（2012年：貿易・産業）、辛島昇・東京大学名誉教授（2013年：文学・教育）が受章しており、今回の前田博士の受章は、日本人としては三年連続四人目の受章となります。

前田博士は、学問の領域においては、インドの思想史上最大の哲学者とされるシャンカラの思想研究における世界的な権威であり、その業績はわが国ならびに欧米各国ではもとより、本国インドにおいても高く評価されています。博士の研究業績は、インド最大の哲学者シャンカラの唯一の独立著作である『ウパデーシャ・サーハスリー』の綿密な文献学的研究として知られる主著の *Śāṅkara's Upadeśasāhasrī, Critically Edited with Introduction and Indices* (1973)、*A Thousand Teachings: The Upadeśasāhasrī of Śāṅkara, Translated with Introduction and Notes* (1979) ならびに『ウパデーシャ・サーハスリー～真実の自己の探求～』(1988)を始め、専門とするヴェーダーンタ学派の思想を中心に多数にのぼります。

社会貢献活動においては、日印文化交流の礎を築いたインド哲学・仏教学研究の大家で、博士の恩師でもある故中村元博士の衣鉢を受け継ぎ、中村元東方研究所理事長のほか、インドと関わりのある各種団体の世話役として長年にわたり日印の学術・文化交流の進展に寄与。多方面にわたる日本とインドの学術・文化交流に尽くし、インド文化の魅力、とりわけ現代のグローバル化社会におけるインド思想の意

義・重要性をひろく一般に紹介することに尽力してきました。近年では、2012年より3年間にわたって進められている「中村元博士生誕100年記念事業」を通じて、学術研究分野を礎とした裾野の広い日印の交流事業を展開。松江市の中村元記念館を開館する機に、山陰インド協会の設立にあたって奔走するなど、経済、産業といった分野への日印の人的交流の発展に多大な貢献を果たしました。

この受章の報を受けて、丸井浩博士（東京大学大学院教授（インド哲学）、日本学術会議会員）は「前田博士は恩師である中村博士が築かれた日印学術交流の基礎を見事に継承発展されてきました。博士はインドの大地に根付く尊い哲学的思索の真髄を、平易な語り口と不屈の精神をもって日本の思想界と一般社会に発信し続けてこられました。科学技術の急速な進展と競争原理のもとで、ひたすら物的、経済的発展へと突き進んできた現代文明はまさに深刻な諸矛盾を抱え、人類、地球社会の存続そのものが危ぶまれている今、インドの偉大な精神文化の伝統に深く学んだ日本の代表的な知識人である博士が、同じ近代化の激流に飲み込まれようとしているインドという巨象に対して、報恩の一念をもって警鐘を鳴らし、人類社会の平和実現にむけたインド精神の覚醒を呼びかける星となって邁進されることを期待しています。その意味で今回の博士の受章はまことに意義深く、喜ばしいことと受けとめています。」と述べています。

前田博士は1931年4月1日、愛知県名古屋市生まれ。東京大学文学部印度哲学梵文学科において故中村元教授の指導の下、シャンカラを中心としたインド正統派哲学であるヴェーダーンタ学派の学問を修めたのち、1961年に米国ペンシルヴァニア大学においてPh.D.の学位を、1973年に東京大学において文学博士の学位を取得しました。インド・マドラス大学、ドイツ・ミュンスター大学での研究活動を経て、1962年より米国・ペンシルヴァニア大学でインド哲学および仏教学を講じ、1973年より東京大学に助教として赴任。1982年より教授職に就き、同大学退官後、1991年より武蔵野大学教授。1994年からは副学長を務めました。

前田博士は人文学分野最大の学術団体の一つである日本印度学仏教学会の理事長を二度務めたほか、日本学術会議の会員・連携会員、国際哲学会連盟(FISP)運営委員でもありました。また、(公財)日印協会理事、(一財)仏教学術振興会理事長などを歴任。現在は(公財)中村元東方研究所理事長／東方学院学院長、史跡足利学校座主、(公財)仏教伝道協会英訳大蔵経編集委員会委員長、中村元記念館館長、中村元記念館東洋思想文化研究所所長、(公財)日印協会顧問、山陰インド協会名誉顧問などの職にあります。

《インタビューならびに写真データの貸出し等、本件に関するご要望・お問い合わせは下記までお願いいたします》

公益財団法人中村元東方研究所・東方学院 事務局（担当：佐々木一憲）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 4階

Tel. 03(3251)4081 / Fax. 03(3251)4082 /

Web-site: <http://www.toho.or.jp/>

※お手数ではございますが、ご掲載の折にはご一報賜りますようお願い致します。

〈添付資料〉

— 前田專學(まえだせんがく)博士・略歴 —

生年月日：1931年4月1日

出生地：名古屋市（愛知県立瑞陵高校卒）

最終学歴：東京大学大学院修士課程（文学修士）、ペンシルヴァニア大学大学院（Ph. D.）

職歴：ペンシルヴァニア大学大学院講師、同大学院助教授、東京大学助教授（文学博士）、同大学教授、武蔵野女子大学教授、副学長、第19期日本学術会議会員、第20期日本学術会議連携会員。

現職：（公財）中村元東方研究所理事長・東方学院長、東京大学名誉教授、武蔵野大学名誉教授、中村元記念館館長、史跡足利学校庠主、日本印度学仏教学会理事（元理事長）、（公財）日印協会顧問、山陰インド協会名誉顧問など。

賞罰：第14回日本印度学仏教学会賞、日本学士院賞、北京社会科学院名誉研究員、勲三等旭日中綬章、韓国東国大学賞牌、スリランカ民主社会主義共和国ブッダ・シュラーヴァカ大学名誉教授、タイ王国衆議院仏教事業委員会功労賞、インド共和国パドマ・シュリー勲章など。

専門：インド哲学（特にヴェーダーンタ哲学）と仏教学

著書：*Śaṅkara's Upadeśasāhasrī, Critically Edited with Introduction and Indices* (1973)、*A Thousand Teachings: The Upadeśasāhasrī of Śaṅkara, Translated with Introduction and Notes* (1979).

『インド思想史』『ジャータカ全集3』『ウパデーシャ・サーハスリー』『ヴェーダーンタの哲学』『ブッダ—その生涯と思想』『インド哲学へのいざない』など。